グリーンツーリズム実施地域における 集落景観に対する住民の選好性評価と空間管理の関係に関する研究

〇岡野ニゆう*・中島正裕**・廣瀬裕一***

*東京農工大学大学院農学府 **東京農工大学大学院農学研究院 ***農研機構 農村工学研究部門

I はじめに

▶背景 グリーンツーリズム(GT)の観光活動には美しい集落景観が中核的価値(中島, 2019)

少子高齡化, ライフスタイル の変化により

予想

住民による空間管理(集落活動・家屋の管理)が価値創出

・住民の集落活動への参加意欲の低下・空き家の増加



◎空間管理の持続性を問うアンケートを実施してみると否定的な回答が多い

なぜなら 労働・心理的負担 よって 対象物への価値認識 からのみの評価 (選好性評価)が含まれない

つまり 住民の深層心理

深層心理が分かる

を活用

労働・心理的負担からの評価だけでなく・・・

深層心理に着目⇒住民の対象物への選好性評価を考慮する必要がある

揚水水車、河川を対象とした研究においては、

|管理活動への態度は,管理対象に対する<u>選好性評価</u>の影響を受ける||

このアプローチを集落景観に援用

評価グリッド法を用いて集落景観に対する住民の選好性評価の構造を解明する

《手順1》 個人ごとの集落景観に対する 選好性評価の構造の抽出

集落景観に対する 選好性評価の構造の抽出



集落景観に対する

Ⅱ 調査対象地

◆群馬県みなかみ町「たくみの里」須川集落 GT先駆的地域「たくみの里」の玄関的存在

旧三国街道の元宿場町の面影が残る美しい集落景観





道普請で整備されている水路



管理されている白壁の家屋

来訪者から高い満足度 (中島,2006)

須川集落の集落景観は 住民による花植え, 道普請 など集落活動,家屋の管理 によって維持されてきた

花植えに関するアンケート (区によって2021年1月実施) ⇒"今後実施しなくてもよい" という回答が約半数

空き家の 増加の懸念



凡例

(回答数

15以上)

(回答数:

10~14)

(回答数:

~9)

Ⅲ 結果

▶目的

《手順1》個人ごとの集落景観に対する選好性評価の構造の抽出

方法 |**評価グリッド法**を用いたヒアリング |ヒアリングの手順(図①)と対象者(表①)

表①:調査対象者(16名)の属性

70代3名,60代2名

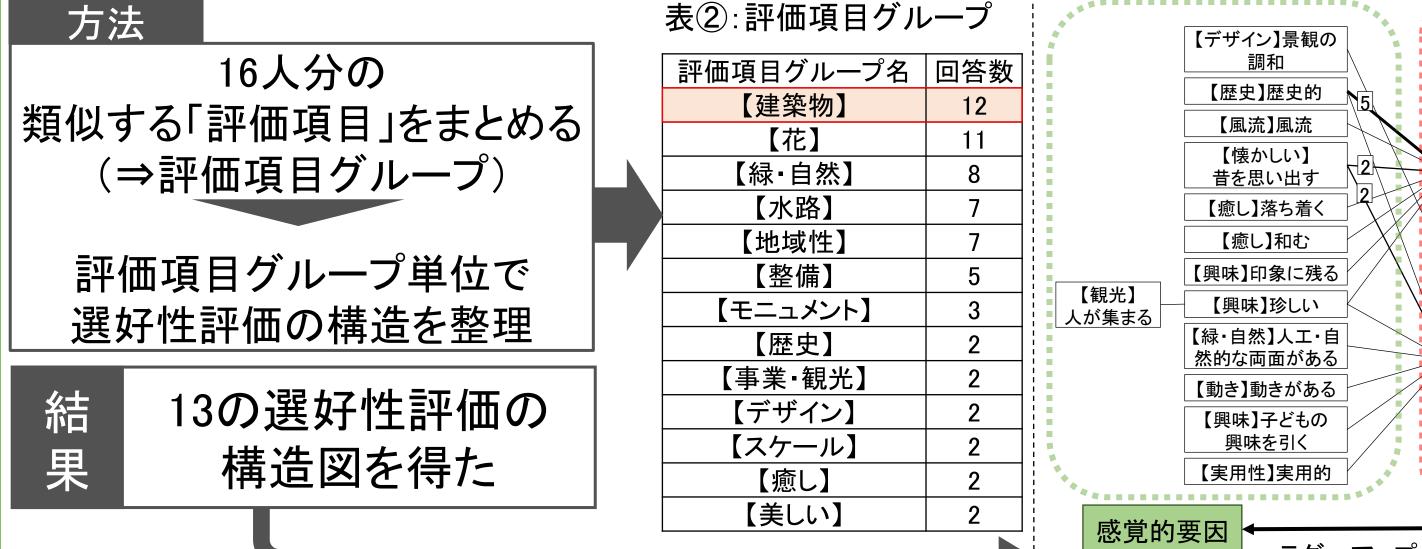
2022年7月25日~7月28日 須川集落の住民16名

男性11名 80代2名,70代4名,60代3名,40代1名,30代1名

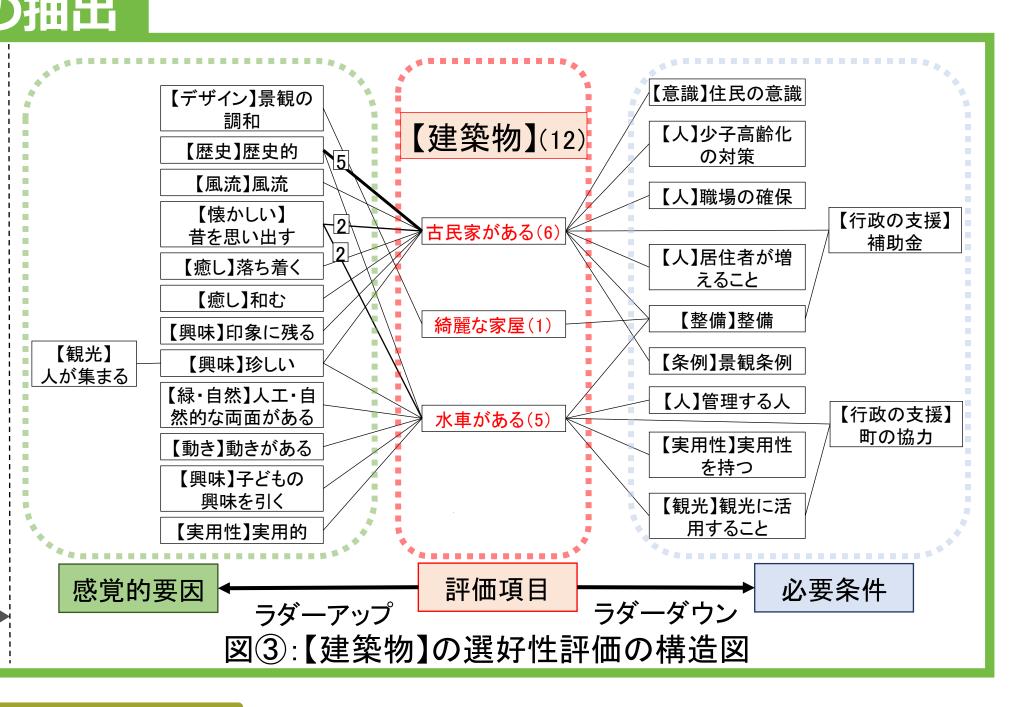
①写真の提示 質問内容 枚について、「好ましさ」を基準に 3段階に区分してください。』 ②写真の区分 ④上位概念の導出 げられた回答内容に対し れた回答内容を満たすために 良いと思う点を導出する 必要な条件を導出する 注) ③, ④, ⑤で得られた AはB(BはC)より好ましいと 『○○だから好ましいとのこと ですが、○○であることでどん 『○○だから好ましいとのこと ですが、○○であるために必 回答をそれぞれ 判断しましたか。』 評価項目 要な条件を教えてください。。 と定義する 必要条件 図①:評価グリッド法を用いたヒアリングの手順

花が綺麗」である 癒される ためには、「手入れ 残していく思い 観光客が分かり や「残していく思い」 良い点がある 残していく思い 観光掲示板 が必要になる 歴史学習ができる 残していく思い 石碑 歴史的 「古民家」があるため 歴史的 奥行きがある 景観条例 観光客に好まれる 保存するための 古民家 「古民家」がある 補助金 落ち着く ;「落ち着く」 観光に活用する 町の協力 「和む」という」 い点がある 必要条件 ラダーダウン ラダーアップ 図②:個人ごと(Cさん)の選好性評価の構造図

《手順2》集落景観に対する選好性評価の構造の抽出



例【建築物】の選好性評価の構造図



◆結果の要点

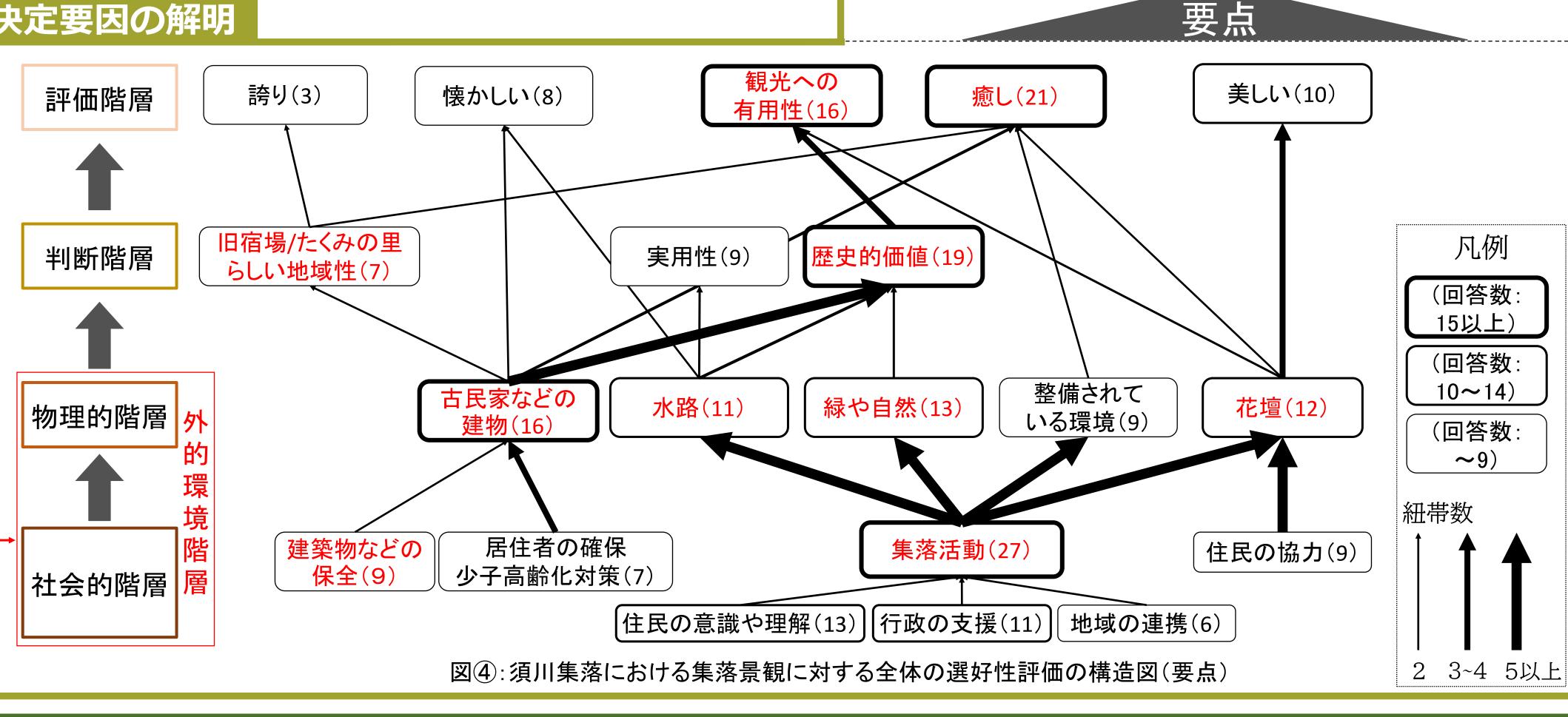
- ・住民は集落景観に対して「日常の癒し」、 「観光活動への有用性」を認識していた。
- ・これら2つの要素には、地域性や歴史的価値 が影響し、その礎として「花壇や水路、緑や自 然が必要であること」を認識していた。
- こうした一連の関係が成り立ち、集落景観とし ての価値が創造されるためには、「家屋管理 と集落活動」が重要であることを認識していた。

《手順3》集落景観に対する選好性評価の決定要因の解明

方法 13種類の選好性評価の構造図を統合 評価項目 必要条件 では、それぞれに次元が異なるものが 含まれ階層性が判断できない 人間の認知プロセスを考慮した 心理的空間評価の階層モデル(小池, 1988)を適用 外的環境階層について、 『社会的階層』⇒『物理的階層』 結 という関係がみられた。

全体として,

4段階の階層関係が見られた。



IV まとめと今後の展望

評価グリッド法を用い、GTの中核価値である集落景観に対する住民の選好性評価の構造を解明した。

集落によるアンケートの結果からは、空間管理(花植え活動など)の持続性が危ぶまれる傾向にあった。しかし、本研究で対象とした16名の深層心理をみると、 ◆まとめ 日常の住環境のみならずGT活動においても集落活動の継続や家屋管理に対する価値認識は高いことが明らかとなった。

◆今後の展望

研究課題: 今回の対象は16名であったため, 全戸に向けたアンケート調査により検証する 実践的課題: GT実施を一体的に捉えた集落景観の保全への意思決定支援

域の観光資源の特性一都市農村交流による農村地域活性化の計画づくりに関する研究 その1一,農村生活研究,第50巻第1号,p31-40 ・廣瀬裕一ら(2013):非農業者住民の揚水水車に対する選好性評価の決定要因が保存活動への参加動機に及ぼす影響,農村計画学会誌,32巻論文特集 号,p287-292 ・三阪和弘ら(2006):河川に対する評価構造と心理プロセスの統合モデルの検討,水工学論文,50巻,p1495-1500